

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：34420

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16252

研究課題名（和文）父親の子育てを介した人間関係の広がりが家族に及ぼす影響に関する研究

研究課題名（英文）A Study Regarding the Influence Between Families and the Expansion of Relationships Through Child-Raising by Fathers

研究代表者

田辺 昌吾（Tanabe, Shogo）

四天王寺大学・教育学部・准教授

研究者番号：00512831

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では父親の人間関係が就学前保育施設を介して広がることの実際とその効果について検証した。具体的には就学前保育施設を利用する父母への質問紙調査および父親支援に積極的な施設の管理職へのインタビュー調査を実施した。その結果、父親の人間関係は母親に比べて広がりが小さいこと、人間関係が広がっている父親は次世代育成意識が高く、園行事に積極的に参画していること、父親の人間関係の広がりは母親にも影響を及ぼしていることなどが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

父親の人間関係が広がることで父親自身や母親に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなったことから、就学前保育施設（園）における父親支援の1つの方法を提示することができ、社会的な意義があると言える。また園において、父親同士の関係を築く上での要点や、今後の父親支援策のめざす方向性についても言及できたことは、今後の子育て支援策を検討する上での材料を提供できたものであり、価値があると言える。

研究成果の概要（英文）：This study examined how fathers expand their relationships through preschool day care facilities and its effects. Specifically, questionnaires were taken by fathers and mothers who use preschool day care facilities, and managers of day care facilities that are proactive in supporting fathers were interviewed. The results showed that the relationships of fathers did not expand as much compared to those of mothers, and fathers who expanded their relationships were highly conscious of the development of the next generation, participated proactively in events held by day care facilities, and the expansion of their relationships had a further influence on mothers.

研究分野：家族関係学

キーワード：父親 人間関係 子育て支援 保育施設 パパ友・ママ友

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1990年代後半以降、「父親の子育て」が社会的に注目を集め、近年では「イクメン(子育てを楽しむ、自分自身も成長する男性)」という言葉が浸透しつつある。国の子育て支援施策においても、父親を対象とした支援策が設定され、父親を含んだ家族に対してどのように支援するかが政策目標となってきた(小崎・増井、2015)。国の施策と連動して、独自の父親支援策を展開する自治体やNPO、幼稚園や保育所、認定こども園や地域子育て支援拠点なども散見され、近年、増加傾向にあり、実践報告も行われている(清水・馬見塚ほか、2015; 松本、2013など)。

その一方で、それぞれの支援策の効果の検証は十分とはいえない状況にある。支援の効果について支援者側の主観でのみ検証し、効果の「可能性」に言及することに留まっている研究が散見され、また一事例研究という位置づけで当該父親支援の効果検証に留まり、広く汎用性のある父親支援策を実証するための効果検証とはなっていない研究なども見受けられる。「父親の子育て」が社会的に注目を集め、それに応じてさまざまな父親支援策が展開されている現状を考えると、当該支援内容にのみ該当するような効果検証ではなく、今後の父親支援策の方向性を示すべく、広く汎用性のある効果検証が必要不可欠である。

これまでの父親支援の効果については、父親の育児・家事行動や子育てに対する意識などへの影響といった父親自身に及ぼす影響という視点から検証されることが多かった。もちろん支援対象者である父親自身にどのような影響があるのかを検証することは意義のあることであるが、さらに今後は父親への支援が父親自身への影響を介して他の家族にも影響があるのかどうかを検証することは必要性が高いと考えられる。国の施策においても父親を含んだ家族に対する支援という捉え方にシフトしていることを考えると、父親、母親、子どもと個別に支援を行い、個別に効果を検証するだけでなく、父親への支援が広く家族への支援にもなり得るということを実証し、「父親支援=家族支援」となることを明らかにすることが、より効果的な子育て支援策を講じることに繋がると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、社会的に注目を集めている「父親の子育て」に関連して、就学前保育施設(園)を介して父親の人間関係は広がっているのか、広がっているとすればそのことの効果はどのような内容なのかを、園との接点と父親の人間関係の広がりとの関連、父親の人間関係の広がりが父親自身に及ぼす影響、父親の人間関係の広がりが家族(母親)に及ぼす影響、の主に3つの内容から検討し、園における父親支援策についての示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 就学前保育施設に通う子どもをもつ父母を対象に質問紙調査を実施した。具体的には、近畿地方のA幼保連携型認定こども園を対象に、同一年度内に2回(6月と3月:6月調査を第1調査、3月調査を第2調査とする)実施した。本成果報告では、2回の調査とも父母(夫婦)セットで回答が得られた世帯のデータを使用する(第1調査83世帯、第2調査53世帯)。

(2) 父親支援を積極的に展開している就学前保育施設の管理職を対象にインタビュー調査を実施した。具体的には、父親の会(おやじの会)の活動が活発に展開されている関東地方のB保育園、C幼保連携型認定こども園の管理職を対象に実施した。

4. 研究成果

質問紙調査から得られた知見を、以下の4点にまとめて示し、インタビュー調査から得られた知見を5点目として示す。質問紙調査の結果は、父親の調査結果の特徴を示すため、母親の調査結果と比較しながら示す。

(1) 父親の人間関係の広がりの実際

園を介した父母の人間関係の広がりについては、園を介して知り合った友人(パパ友・ママ友)の人数によって把握した。第1調査でパパ友がいると回答したのは、20名(24.1%)の父親で、ママ友がいると回答した母親の54名(65.1%)に比して少ない結果となった。このデータについて、父母間(夫婦間)の関連を検討するため、父親のパパ友の有無と母親のママ友の有無で2×2のカイ2乗検定を行った(表1参照)。その結果、有意差が認められたため($\chi^2=10.390$, $df=1$, $p<.001$)残差分析を行ったところ、父親にパパ友がいる場合は母親にもママ友がいることが多く、母親にママ友がいない場合に父親にパパ友がいることは非常にまれであることが示された。すなわち、父親がパパ友を得る過程では母親の影響があり、母親を介して人間関係を広げていることが窺われた。父親の人間関係を広げていくためには、父母(夫婦)を単位として働きかけることが有効であると考えられる。

また、第1調査時点から第2調査時点の間にパパ友の人数が増えた父親は11名(20.8%)で、ママ友の人数が増えた母親の18名(34.0%)より少なかった。このパパ友・ママ友が増加したことの父母間(夫婦間)の関連を検討するために相関係数を算出したところ、.419($p<.01$)と中程度の関連が認められ、この結果からも父親がパパ友を得る過程では母親の影響があることが示された。

表1 パパ友の有無×ママ友の有無 クロス集計結果

		ママ友の有無		合計
		いない	いる	
パパ友の有無	いない	28 (3.2)	35 (-3.2)	63
	いる	1 (-3.2)	19 (3.2)	20
合計		29	54	

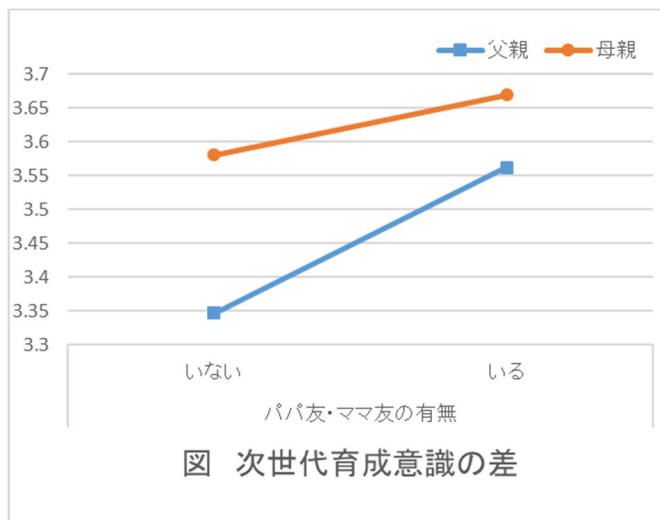
()内は調整済み残差

(2) 園との接点と父親の人間関係の広がりとの関連

パパ友・ママ友の有無と園との接点(「保育参観」「講演会」「保護者会」「クラス懇談会」「運動会などの行事」「保護者清掃」への参加の程度)について、第2調査のデータを用いて、平均値の差の検定を行った。その結果、父親においては園との接点のうち「運動会などの行事への参加」(t値=2.20、p値=0.034)と「保護者清掃」(t値=3.06、p値=0.007)において有意差が認められ、パパ友がいる父親のほうが園の取り組みに参加していることが示された。また、母親においても同項目で有意差が認められた。父母ともに、園行事などを通して人間関係を広げていること、または友人関係があるから園行事などへの参加も積極的に行われていることの両面の可能性が示唆された。父親に園行事等への参加を促すことは、父親支援の1つと考えられる。

(3) 父親の人間関係の広がりが次世代育成意識に及ぼす影響

パパ友・ママ友関係が次世代育成意識(杉山、2010;「子育てには地域の協力や社会の支援が大切である」「地域での活動などを通して、さまざまな子どものかかわりをもちたい」など、7項目4件法)に及ぼす影響について、第2調査のデータを用いて、「パパ友・ママ友の有無」と「父母の別」を独立変数に、次世代育成意識7項目の合成得点を従属変数に設定した、二元配置分散分析を行った(図参照)。その結果、「父母の別」の主効果は有意差(F値=4.78、p値=0.031)が認められ、「パパ友・ママ友の有無」の主効果は有意傾向(F値=3.77、p値=0.055)が認められた。交互作用に有意差は認められなかった。これより、父親において、パパ友がいることが次世代育成意識を高めることにつながり、園を介して父親の人間関係が広がることで、地域のみならず子どもを育てていく土壌づくりになることが示唆された。



(4) 父親の人間関係の広がりが母親の育児幸福感に及ぼす影響

父親のパパ友の有無が母親の育児幸福感(清水ら、2010;「子どもが生まれてきてそこにいること自体が喜びである」「生まれてきてくれたことにありがとうを子どもに言いたい」など、13項目5件法、『育児の喜び』『子どもとの絆』『夫への感謝の念』の3下位尺度からなる)に及ぼす影響について、第2調査のデータを用いて、下位尺度ごとに平均値の差の検定を行った。その結果、『育児の喜び』で有意差が認められ(t値=2.01、p値=0.050)、『夫への感謝の念』で有意傾向が認められた(t値=1.82、p値=0.075)。父親の人間関係が広がることで、母親の育児の喜びにつながっており、父親が他の父親と関係を築いていくことがパートナーである母親の育児を肯定的なものにしているということから、父親への支援が母親への支援にもなり得ることが示された。

(5) インタビュー調査から得られた知見

インタビュー調査で得られた知見を以下に列挙する。

- ・ B 保育園では「おやじの会」活動が 30 年以上続いているが、家庭や地域の変化に応じて、会の運営にも変化が求められている(かつては父親のみの参画で活動が展開できていたが、現在は父子で活動する内容が中心となっている)
- ・ 保護者が園と接点をもつことの効果(園側のねらい)は、「子育てを一人(各家庭)だけで担わなくてよい」頼り頼られながら行うのが子育てで、それが子どもの成長にもつながる」と、保護者が認識するようになることであり、そのことによって、豊かな子育てコミュニティを形成できる。
- ・ 保護者が子どもの成長を確認しやすいのが園行事であり、子どもの立場からは親だけでなく他の保護者とかかわり、その人たちから認められていると実感できる良さがある(社会の中で生きていくと感ぜられる)
- ・ 園運営に日常的に保護者の参画があること(保護者が管理する絵本室の運営、保護者によるサークル活動、父親の会による園庭整備など)や地域とのつながりがあってこそ、いい保育ができること(地域には保育資源があふれている)を常に意識することが重要である。

(6) まとめ

父親の人間関係が広がることで父親や母親に肯定的な影響を及ぼしていることが示されたことから、園の父親支援として、父親同士の関係をつないでいくことが重要であると言える。その際、母親の人間関係の広がり大きな関連があるため、父母(夫婦)ともに働きかけることが有効であり、園行事などを通して関係性が広がっていくことも想定されたことから、まずは父親が園と接点をもちやすい行事などへの参加を促すことも重要である。父母共に人間関係を広げていくことが豊かな子育てコミュニティの形成につながることを保育現場が認識し、園の取り組みを通して子育てコミュニティの形成を果たしていくことが、これから求められる子育て支援策ではないだろうか。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田辺昌吾	4. 巻 37
2. 論文標題 家庭と連携した保育を展開するための一方策 - 保育現場における父親支援に焦点をあてて -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エデュケア	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田辺昌吾	4. 巻 3
2. 論文標題 幼児は他者とのかわりのなかで何を体験することが期待されているのか - 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からの検討 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 四天王寺大学教育研究実践論集	6. 最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小崎恭弘・田辺昌吾・松本しのぶ・石井クンツ昌子・安藤哲也・久留島太郎
2. 発表標題 父親を支える子育て支援、社会の構築 - ポストイクメン時代へのアプローチ -
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田辺昌吾
2. 発表標題 保護者の園を介した人間関係の広がり - 父母間の比較からの検討 -
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小崎恭弘・田辺昌吾・松本しのぶ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 家族・働き方・社会を変える父親への子育て支援	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----